

「青少年のための科学の祭典」 2010全国大会で研修会と研究発表会を開催



【科学の祭典開催】
今年は開場の時刻ですすでに暑く、たいへんな夏だった



【安全講習会】
出展者・教育関係者の方々が参加した



【研究交流会】
パネルディスカッション形式で出展者の代表の方の経験談を話題とした



【日本学生科学賞研究発表会】
日本学生科学賞最終審査出場研究作品の発表

2010（平成22）年7月30日（金）～8月1日（日）の3日間、科学技術館にて第19回目となる「青少年のための科学の祭典」2010全国大会を開催しました。今年は、7月30日を研修会の日とし、7月31日と8月1日は、通常の一般来場者を対象とした科学実験体験イベントに加え、日本学生科学賞の研究発表会を実施しました。研修会に参加した人は909名、一般の来場者は19,181名でした。

●研修会

全国大会開催期間の初日に、出展者および全国の教育関係者の方々を対象とした研修会を実施しました。趣旨は、さらに多くの青少年に優れた科学実験体験をしてもらうために、指導する側の方々のスキル向上を目指す目的で実施したものです。研修会の内容は以下の3部構成で実施しました。

- 第1部 安全講習会
- 第2部 出展視察会（前後半2グループに分けて交代で相互研鑽）
- 第3部 研究交流会

第1部：安全講習会

「『青少年のための科学の祭典』での事故ゼロを目指して」、「全国大会での安全管理ポイント」と題して、全国大会の実行委員による安全講習会を実施しました。全国大会は、過去18年間の大会運営の実績があり、全国大会で今まで積み上げてきた安全に対する実行委員の取り組みと、事故事例や注意の促し方、そして安全に対する出展者としての心構えなどについて説明を行いました。講習会に参加いただいた方々が、各地域で活動する際に役立てていただければと思います。

第2部：出展視察会

出展者の方々を2つのグループに分けて、交代で出展内容を視察してもらいました。出展者の方も、少なくとも全体の半分の出展ブースを見ることができました。一般来場日は多くの来場者が参加し、主役は子どもたちですので、大人の方が実験体験をすることが難しいですが、視察会では出展者の方も教育関係者の方も十分に理科実験を体験していただき、お互いにゆっくりと話をすることができました。

第3部：研究交流会

今回の研究交流会は、パネルディスカッション形式で実施しました。テーマは、
・「実験を演示する際の工夫や取り組みについて」
・「地域に根ざした科学教育の視点にたった、『科学の祭典』の役割について」とし、実行委員の進行で出展者の中から代表の方にパネラーになっていただき、経験談を主に話題を展開しました。

●日本学生科学賞研究発表会

一般公開日に通常の科学実験体験イベントに加えて、平成21年度の日学生科学賞最終審査出場研究作品から中学校3校、高等学校5校による研究出展と研究発表を行いました。どの研究も全国から選ばれた優秀な研究作品であり、研究内容のレベルの高さに来場者の方々も感心していました。今後も、科学の祭典の場で中高生が研究発表の機会をより多く設けていくことができると考えます。

< 振興事業部 >